

# 実践9 「レインボーかき氷ができたよ！」

**概要** 色水をペーパータオルにかけてかき氷を作ること考えた子どもたちが、混色の面白さから、色と色の組み合わせに興味をもち、思い通りの色にしようと試したり、工夫したりする過程を捉えた実践です。

**ポイント** 保育者は、子どもたちの思いを受け止め、混色ができる色と色の組み合わせを試し、遊びの工夫を楽しめるように環境づくりをしています。混色の発見、思う色にならなかった経験、異年齢の関わりもあり、混色の法則を追求していく過程に「科学する心」につながる体験を読み取ることができます。

## 安城市立二本木保育園

## 4歳児5歳児

きっかけ：かき氷の壁面製作を作ったことから、色水のシロップを氷に見立てたペーパータオルにかけて、かき氷作りを日々楽しんでいた子どもたち。すると、地元で開催された祭りに行った子どもが、屋台で売られていた『レインボーかき氷』を自分たちも作ってみたいと伝えに来た。

### 場面1：「レインボーかき氷を作ってみたいんだ」 4歳児

#### 思い

かき氷をレインボーにしたい

#### 気づき

何で、茶色になっちゃっているんだろう…？

#### 共感してほしい

すごい！！オレンジ色になったことを伝えたい

#### 気づき

オレンジ色になった理由が分かった！

#### 発見

いろいろな色がある！

#### 発見

新たな発見！自分なりに考える



Aさん：「お祭りの時にあった、レインボーかき氷作ってみたいんだけど、全部(色水のシロップ)かけていい？」

Bさん：「私も作りたい！虹みたいでかわいいもん」

Cさん：「私もやってみよっかなー」

Dさんは、3色のシロップをかけて「できた！」と、とても満足そうに見る。

保育者：「すごいおいしそう！素敵なかき氷ができたね」

Aさんは、完成したのを見つめ嬉しそうにするが、時間が経つにつれ、**下の方に溜まっているシロップが茶色になっていることに気づく。「なんでここ、茶色なんだろう…？」**

でも、コーラとチョコレートみたい！」

Cさん：「私のかき氷は、オレンジになってる！」

保育者：「どこどこ？本当だ！なんでオレンジになったんだろう…？」

Cさん：「**赤と黄のところがオレンジになってた**」

保育者：「Cちゃんすごい発見だね！赤と黄色でオレンジ色ができたんだって」

・その後、DさんとEさんもレインボーかき氷を作り出した。

Dさん：「先生、見てー。いろいろな色があるよー」

保育者：「何色がある？」

Dさん、Eさん：「**茶色にオレンジ、水色、緑、黄色、青**」

・**自分の作った色の混ざり具合を見つけていく。**

保育者：「すごいいっぱいの色ができたね。何でだろう？」

Dさん：「えー？分かんない」

Bさん：「**ねえねえ先生、ここ黒くなった！青と黄色と赤が混ざったからなんじゃない？あつ！青をたくさんかけたから黒くなったのかも**」

保育者：「青をたくさんかけると黒くなるんだ！不思議だねえー」

・その後**いろいろな色の混ざり合う変化を楽しみながら**かき氷ごっこを進めていた。

○赤・青・黄の原色の色水を準備し、自分でかけられるようにはちみつチューブに入れておく。



○周りの子どもにも知ってもらいたいな、みんなのやりたい気持ちが広がるように、周りの子どもにも伝えるように、気づきや発見を認める。



4歳児を中心にかき氷屋さんごっこが盛んになり、そこに5歳児や3歳児も加わって一緒に楽しんでいた。3, 5歳児は初めてののかき氷作りだったため、シロップをかける面白さを存分に味わっていた。以前はペーパータオルを使ってのかき氷作りで色が染み込みにくく、茶色く混ざったものになってしまった。今回は色が染み込みやすく鮮やかな色のかき氷が作れるように、保育者は和紙を用意しておいた。

## 場面2：「レインボーかき氷ができたよ」 4・5歳児

(4)…4歳児、(5)…5歳児

### 気づき・探究心

どうしてできたんだろう？

### 共感・気づき

私も同じだ！

### 好奇心

ワクワク！楽しそう！

### 期待・試す

どうなるのかな？

### 満足感

やっぱり！

### 伝えたい

私のも見て



### 満足感

思い通りにできた

### 共有

みんなに伝えたい

・子どもたちが集まって、自分が作ったかき氷を嬉しそうに食べる真似をしている。

保育者：「かき氷、メロンの所もあるんだね。あれ？緑のシロップなんてあった？」

Mさん(5)：「うん、あったよ！（確認の為、シロップを見る）あれ！？**緑のシロップなんてなかった！どうしてだろう？**」

Nさん(5)：「見て！**オレンジ色もないのに、ここオレンジだよ**」

Mさん(5)：「何でだろう…あっ！黄色と赤でオレンジになったんだ！」

保育者：「そうかもね。確かめてみる？」

Mさん・Nさん(5)：「うん！やってみよう」

・再度、和紙を使ってかき氷を作り、**青の上に黄色のシロップを慎重にかけていく**。周りの子どもも、真剣に見守っている。

Mさん(5)：「わ！**黄緑になった、すごい！**」

Nさん(5)：「私は**赤と黄色！すごい！本当にオレンジになった**」

Kさん(4)：「すごい！面白いね。ここは**赤と青で紫になったよ！**」

・4・5歳児を中心に、一つのかき氷に少しずつシロップをかけて、どんな色に変化するのを楽しんでいた。その後、混色の発見をみんなで共有できるように、保育者とみんなと相談し、カラーチャートを作ることになる。

Nさん(5)：「**青と黄色は黄緑と緑になってたよ**」

・「**赤と青は紫**」など口々に言いながらボードにカラーチャート表ができた。

・自分たちで作った**チャート表を見ながら何度も色の変化を楽しんでいた**。

Kさん(4)：「**そういえばこの紙でやると茶色にならない**」

保育者：「**本当だ。この前レインボーかき氷作った時は、下が混ざって茶色になっちゃったもんね**」

Kさん(4)：「**何でだろう？下も前みたいにベチャベチャになってないし、魔法の紙みたい！**」

Yさん(4)：「**うん、今日かき氷やってないみんなにも知らせよう**」

Kさん(4)：「**うん、うん！！**」

○赤黄青の3色のシロップ、ペーパータオルに加え、和紙も用意し、紙の違いに気づいたり、色の変化がより分かりやすくなったりするようにした。



**[考察] 場面1**・A児が「お祭りで見たレインボーかき氷を作りたい」という思いから、今まで1色だけだった絵の具シロップ何色かを一緒にかけた時、色の変化を発見することができた。いつもの遊びと体験を子ども自ら結び合わせ、「レインボーかき氷を再現したい」という好奇心からの行動であったと思う。

・シロップに見立てた絵の具が紙にうまく染み込まず、予想に反して色が混ざり合って、「茶色になった」という変化に「あれ？思うようにいかなかったぞ？」と、新たな気づきと発見があった。そこに色が変わる面白さを感じることができたが、その理由を考え突き止めようとするまでは今回は至らなかった。しかし、色が混ざる面白さを感じ、その変化を不思議に思い、なぜだか知りたくなったり、自分なりの答えを出そうとしたりする経験をたくさん重ねていくことで、子どもたちの中に、好奇心や探究心が育っていくのではないだろうか。

**場面2**・4歳児が、遊び込んでいた遊びに異年齢の子どもが加わったことや、色が染み込みやすい和紙を使ったことで、前は気づけなかった混色の法則への気づきやチャート表を作る姿につながった。

・保育者が、子どもの気づきを受け止め、分かったことを視覚的に共有できるようにしたことが、「なぜ？」と不思議に思い、自分なりの予想を立てて再度試す姿につながった。分かったこと、経験したことで「面白い」「すごい」と思うことを自分で「確かめたい」と思う気持ちが、好奇心、探究心となって膨らみ、「本当にできるのかを確かめる」ことで味わえた満足感は、また新たな発見や好奇心の芽生えとつながっていった。子どもが十分に試したり工夫したりできる環境の工夫と共に、自分で見つけたとことが認められたり、共有できたりする環境構成と援助が大切なのではないかと考える。